

第37期第5回長崎県社会教育委員の会議 議事録

開催日時	令和6年2月19日（月） 13：10～16：00
開催場所	県庁 教育委員会室
出席者	<p>【社会教育委員】 本田委員長、郷野副委員長、棕本委員、一瀬委員、藤田委員 岩本委員、梅木澤委員、峰委員、平山委員、野間委員、林委員 久保田委員、北島委員、他1名（※非公表） 計14名</p> <p>【事務局】 （生涯学習課） 加藤課長、森総括課長補佐、馬場参事、谷口参事、永田係長 朝長係長、深堀指導主事、柴田指導主事、小島指導主事 峯脇指導主事、徳永主事 計11名</p> <p>【関係各課】 人権・同和対策課（2）、こども未来課、義務教育課 高校教育課 計5名</p>
(1) 開会	○出席者紹介
(2) 各課連絡	<p>○こども未来課（新規事業について）学校×ココロねっこ メディア使用時間増加が、不登校につながっている。 ココロねっこ運動は、大人のあり方を見直す運動だが、子ども主体 で解決策を考えるべき。この事業では、小中学校で子どもがメディア と上手に付き合う方法を考える。使用時間が増える夏休み前に実施し たい。協力してくれる学校があれば紹介してほしい。</p> <p>長崎と佐世保で「ながさきっこメディアサミット 2024」を開催す る。大人よりも子どもの方が、メディア使用に詳しい時代。メディア との上手な付き合い方を、子どもと一緒に考えることが必要で、子ど もまんなか社会実現のため、子どもの意見を聴くことが求められてい る。</p> <p>子どもが考えるメディアとの付き合い方を、家庭でのルール作りにつ ながげたい。</p>

○高校教育課（高校・地域連携イキイキ活性化事業について）

地域の子どもを地域で育てる機運を、地域と高校が一体となって醸成していき、魅力ある学校づくりを目指すとともに、生徒の主体性や創造性、実践力を基盤としたふるさと教育を行い、地域への人材の還流を生み出したい。令和5年度にコンソーシアムを組成し、令和6年度から魅力化事業を実施していくことになっている。

コンソーシアムという表現がわかりにくいということから、島原市では、「はみ出せ島原！高校生共創プロジェクト」としている。島原5校の合同生徒実行委員会を中心に、独自の取組や他校と共創で3つのプロジェクトを行い、町の賑わいを作り出し、学びの定着を図っている。活性化プロジェクトは、オーダーメイド型で各地域異なる。探究活動等により島原の魅力を再発見し、課題解決プロジェクトでは、島原が今着手すべきことを考えることで、高校生の学びが深まり、それが地域のためにもなる。

新上五島町では R6 魅力化事業として、幼小中高一貫でふるさとの日を設定し、ふるさとに関する提言発表や、合同音楽祭などを実施する。高校と地域が連携して、キャリア教育を深化させていく。

○人権・同和対策課（中央研修会について）

期日：令和6年2月27日（火）

テーマ：学びとつながりが主体性を育む

～人権尊重社会の実現をわたしから～

I 講演：講師 森実（学校教育における人権教育調査研究協力者会議）

個別人権課題に取り組む人権教育が求められている。社会の変容に立ち向かうには、人権の知識・人権感覚とは。横断的な枠組みや柱を設定していく必要がある。

II 県立高校の生徒が実践発表意見交換

島原高等学校：地域の困り感に焦点 地域とつながりながらの実践
諫早商業：長崎県警と協働でサーバーセキュリティボランティア
情報技術の知識を地域に生かしている。

五島市：多様性があり、魅力がある島を目指し、LGBT について
学び、自分たちにできることを考えている。

実践発表後「持続可能な活動を目指したパネルディスカッション

<p>(3) 委員会議事</p>	<p>Ⅲ 講演 講師 NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会副理事長 藤田哲章氏</p> <p>国民の理解が求められている。どのような視点で向き合うか、家族と友人の視点で考える。ぜひ周知頂きたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>令和6年度補助金について（地婦連・PTA）</p> <p>婦人会の補助金について当該の委員には、御退出をお願いします。 —当該委員 退出—</p> <p>婦人会補助金について事務局に説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>婦人会活動活性化事業補助金は、例年交付している継続のもの。子どもの健全育成や子育て支援、地域に貢献する活動への支援を行っている長崎県地域婦人団体連絡協議会へ補助金を交付するもの。補助予定額は令和5年度同様670,000円の予定。令和6年度対象事業については記載のとおり。</p> <p>運営委員会やリーダー研修会、実践発表会の開催、広報啓発活動に対して補助を行う予定。</p>
<p>委員長</p>	<p>どなたか御意見お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>異議なし</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。それでは委員に入室させていただきます。 —当該委員 入室—</p> <p>続いてPTAの補助金について説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>こちらの補助金は新規のもの。九州ブロックPTA研究大会 長崎大会開催費補助金は、九州各県の持ち回りで開催しているPTAの研究大会が、来年度長崎県で開催されることに伴う補助金である。</p> <p>本大会は、九州ブロックPTA関係者が一堂に会し、日頃の実施や実践をもとに、これからのPTAの在り方や直面する諸課題の解決に向け、研究協議を深め、今後の活動の充実、発展を図るものである。</p> <p>補助先は九州ブロックPTA研究大会の実行委員、補助予定額は4,000,000万円。日程は資料のとおり10月26、27日の2日間。会場</p>

	は出島メッセ長崎、参加予定者数は 6,000 人。
委員長	説明のとおり持ち回りの開催で、7年に1度の新規の補助金となっている。どなたか御意見ございませんか。
委員	7年前にどの程度お金があったのか教えていただければ、比較ができる。もう一点、増額などということはこの中で確認できるのか。
委員	平成 26 年は全国大会だったので、九州大会と比べられないのではないか。14 年前の数字を見ないとわからないと思うのだが。今年度とその前の補助額を教えていただけるか。
事務局	<p>前回大会平成 26 年度は九州大会と全国大会を兼ねており、その時の補助額も同額の 400 万円。</p> <p>さらに前回九州大会規模で行われているものについては手元に資料が無いが、令和 5 年度、今年度の佐賀大会は 500 万円、令和 4 年度沖縄大会は 700 万円、どちらも県から支出されているもの。</p>
課長	様々な経費がかかる状況にはなってきているが、補助金は減っていくような状況にある。今回は前回の 400 万円を根拠に現在予算要求をしているところ。
委員長	他に御意見ありませんでしょうか。
委員	ありません。
(4) 協議 委員長	○第 37 期長崎県社会教育委員の意見書作成に向けて 本日のテーマである意見書の作成について、事務局お願いします。
事務局	<p>これまで「人口減少時代における長崎らしい社会教育のあり方～多世代・多分野が参画した持続可能な地域・人づくり～」をテーマに 3 つの柱について協議を進めてきた。</p> <p>県の社会教育委員の御意見を、市町の社会教育の推進に活用していただくための意見書の作成をするということで協議を進めてきた。県の社会教育委員の御意見をより多くの方に知っていただき活用して</p>

	<p>ほしいとの思いから、タイトルを県社会教育委員からのメッセージとしてはいかがかと考えている。できれば配布しているような手に取りやすく活用しやすい形にまとめていければと考えている。</p> <p>まずはグループに分かれてそれぞれのテーマについて、メッセージとして掲載する内容の精選でありますとか、表現方法等について御協議をお願いします。</p> <p>その後、グループ協議の内容を全体で共有し、全体で協議をする。内容の精選、表現方法等について御協議いただく。</p> <p>何か御質問はございませんか。</p>
委員	<p>最終的にどこ向けに提出するのか。</p>
事務局	<p>県の社会教育委員から市町の皆様へ、県はこんなことを大事にしたいと考えていますということをお伝えして、気持ちを同じくして社会教育を推進していきましょうというメッセージになればと考えている。</p>
課長	<p>こんなことを大事にしていきましょうということを共有するメッセージにしたいと思っている。県から市町の社会教育委員の皆様へ、御提案という形のメッセージにさせていただき、その後には、当然市や町でがんばっておられる社会教育の実践をされている方々に伝わっていくようなメッセージになればと考えている。</p>
委員	<p>ということは、市町の社会教育委員、そこからさらに継続をしていただくように生涯学習課からメッセージを推し進めてほしい。</p>
委員	<p>メッセージ先はわかった。予算的なものもあると思うが、1枚かなこのサンプルを見たときに〇がいっぱい並んでいて読みたくないなと感じる。できたら手に取って読んでみたくなるようなメッセージにしたい。</p> <p>字ばかりだと読むほうが苦しいと思ったりするが、あとは事務局で整理したり、体裁を整えたり、図式化していただけると考えて、今日は意見の集約をすればいいですか。</p>
事務局	<p>あくまでサンプルはこのような形でということで、例として御提示</p>

	<p>したが、これが全てではない。2枚以上になると予算的に厳しいが、手に取りやすい形で整理できればと思う。</p>
委員	<p>本日出席の各課の方へ質問をしてもよろしいか。</p>
事務局	<p>大丈夫です。</p>
課長	<p>コロナの影響が一番受けたのは、社会教育の世界だと思う。私たちとしましては、今後社会教育を前に進めていくために、こんなところを大事にしていきたいと思いますというような応援メッセージ、そのようなイメージで市町の皆様や県内の社会教育の実践家の方々にお届けしたいなと思っている。本日御意見いただく中で、体裁についても御意見いただければと思っている。</p> <p>各課のメンバーについては、どんどん声をかけていただければと思う。</p>
委員長	<p>可能であれば3項目のキーワードを見つけていただければと思う。内容の精選に加え、いわゆる目に映る、手に取っていただく一つのきっかけとなるキーワードを出していただきたい。よろしくお願いします。</p> <p>— 机 移動 —</p> <p>— グループ別 協議 —</p>
(5) 協議 委員長	<p>休憩後、全体での協議に入る。</p> <p>ここからはテーマごと協議をしていただいた内容を共有したい。</p>
委員	<p>○地域学校協働活動</p> <p>地域学校協働活動に携わっている人がWin-Winで、委員の負担を少なくして地域の活動をしていけたらよい。地域コーディネーターをキーにして、まちづくり、地域づくり、そこにつながっていく学校という感じで進めていくのはどうかという話をしていた。</p> <p>しかし、これはもうすでに各市町でやっている。被せてメッセージ</p>

委員	<p>するのは上から目線ではないか。</p> <p>ではどうしたら良いのだろうか、というところで話を展開した。</p> <p>県の社会教育委員が、市町の社会教育委員にメッセージを送るとなったとき、自分たちの置かれている立場、社会教育委員としてどう動けるのかということを考えなければならないなということにいきつく。</p> <p>地域学校協働活動の推進にコミュニティ・スクール、当然学校支援会議で動いている学校もある。その地域学校協働活動の推進に向け、社会教育委員は何ができるのかと考えた。</p> <p>逆に社会教育委員は何かしていますかと考えた。学校に参じてますか。地域のことかわからないのに、社会教育委員ですっていう肩書だけをもってお話するとなると相手に受け取ってもらえない。</p> <p>皆様は学校に行かれていますか、校長に会われていますか。</p> <p>社会教育委員になったときに、社会教育委員は動ける、どこにでも行けると言われた。それが社会教育委員。</p> <p>しかし、実際には価値が低い。卒業式入学式に呼ばれない。他の役職で呼ばれることはあっても社会教育委員として声がかかることは少ない。学校側もそういう認識が少ない。</p> <p>原点に立ちかえる。社会教育委員が一步前に出て、地域の学校に足を運び、本当の実態を知る。そのことにより、地域学校協働活動の推進にアドバイスができる、人をつなぐこともできる、そういう役割をもっているコーディネーターの役割が社会教育委員なのかなと思う。キーワードは「一步前に踏み出す社会教育委員」。</p> <p>そのような形でまとめていただきたい。</p> <p>行政の方には、社会教育委員に対し、学校に訪問をする際の手続き等といった、委員が知らないことを教えていただけるとありがたい。</p> <p>○地域総がかりでの家庭教育支援</p> <p>できるだけ難しくない言葉を選び、3つの項目で意見をまとめた。</p> <p>一つ目、「地域は皆さんの子育てを応援しています」というメッセージを発信していく。</p> <p>どんな子育てをしている、どんな補助があるか等、子育て情報をSNS等でお知らせしていく。</p> <p>二つ目、「ニーズを知りましょう」どんな支援団体があり、その団体が何をしてどんなサポートができるのか、お知らせすると同時に、</p>
----	---

委員	<p>相談窓口・支援体制を整えていく。そのための家庭のニーズを知りましょうということ。</p> <p>三つ目、世代を超えて話し合いませんかということで、「子どもをまん中に子どもの意見を聞きましょう」、みんなのできる支援について、様々な業種、職種、世代の方でワークショップ形式で話しませんかというメッセージ。</p> <p>その際は、ぜひ「ながさきファミリープログラム」を活用していただきたい。</p> <p>○多世代・多分野が関わる社会教育</p> <p>まずは、キャリア形成について。職場体験だけでは自分の適性がわからない子どもが多い。学校で出会わない人に出会わせる場が必要。それが社会教育。</p> <p>一人一人の多様性を前提とする居場所を見つける。人に人が集まる。その人が魅力的であることが大事。人が集まるように（居場所づくりができるように）仕向けていき、その周りにまた人がどんどん集まるような仕組みを作るのが社会教育。</p> <p>以前は子ども会、青年団、婦人会、老人会など、いろんな世代が集まる場があった。それが薄れてきている今、改めて新たな集まりの場の再構築を図る必要があり、まちづくり協議会や地域コミュニティといった場を再編する必要がある。</p> <p>学びや楽しみを社会教育的に、集まる力を広げていくのが社会教育委員に求められる。「楽しくおもしろそうなことに人が集まる」。</p> <p>社会教育委員自体が楽しむ。学校に出かけながら学びを深めることが大事。そして一番大事なのが「共感力」ではないか。そこに集まった人と共感しながら、委員として自分は何ができるのか、できることを探しながらやっていくことが大事。</p> <p>最後に、パンドラの箱は御存知か。パンドラの箱は開けてはいけな いと言うが、パンドラの箱は開けないといけない。パンドラの箱の中にある悪いことは吐き出してしまっ て最後の底に残っているのは何か。最後には希望が残っている。パンドラの箱を開けて、最後の希望の光こそ社会教育となるように、我々は社会教育委員として活動していきたい。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。ここからは全体を通して協議を進めたい</p>

委員	<p>と思う。ご意見はありませんか。</p> <p>パンドラの箱を開くというのは同感。社会教育委員がやっていいのかなっていうことを、やっていく。</p> <p>あとは、何をしないといけないのか。どう動いたらいいかわからない社会教育委員のために、マニュアルをつくるべきかと思う。</p>
委員	<p>昨年、東彼杵郡の社会教育委員の研修会に行った。社会教育委員として委嘱されても仕事の内容がよくわからないし、充て職的にはまっただと思うという声も聞かれた。そこで、力を発揮できていない人がいる。</p> <p>子どもにとって一番身近な学校に社会教育委員が関わりをもって意見が言えるということは大事。学校に出向くことをメッセージに入れたほうがいい。</p>
委員長	<p>私も同感。学校に行きましょうということに関しては、強いメッセージが必要かと思う。多世代というところにも関わってきますが、ひだまりの木に人は集まるとも言います。そういう場面を作っていくということも多世代、多分野という内容になってくる。</p> <p>他にございませんか。</p> <p>今回の意見をもとに事務局がまとめて、最終的に6月に完成させますので、思いは全て本日お伝えしておいてください。</p>
委員	<p>ファミプロを使おうということはこれまでも伝えてきている。どういふふうにするといった具体的な使い方がほしい。</p>
委員	<p>どうしても学校現場での活用というイメージがある。学校現場だけでなく、地域でも光を当てて、ワークショップ形式の活動の際に活用してほしい。</p>
委員	<p>ちなみにどんなテーマだったらできるか。</p>
委員	<p>入学説明会で保護者向けに行ったことがある。また、地域で子ども</p>

委員	<p>を育てるというテーマでお茶などを自由に飲みながらカフェ形式のワークショップ形式で行ったこともある。</p> <p>カフェ形式は、公民館で自由にお茶とか好きな飲み物を取りに行つて、席で話せるようにして、話しながらお菓子を食べながらといった自由な感じで実施した。これに関しては、もともとの地域の中での実施だったからできたかなと思う。</p> <p>公民館に集まって、この町に必要な防災とは何かを考えたり、ワークショップを行ったりして、話を進めていった。もう一つ、メディアについて、地域の多世代の方が集まって、どういったルール作りが必要かといったワークショップをファシリテーターが入って実施した。様々な世代の方を交えて、地域での共通認識をもつことができた。</p> <p>地域全体に呼びかけて実施したが、来るか来ないかということが1つ問題。ただし、少人数であっても来てくれたらその話題が地域に広がる。1つでも種をまいていただくと、目が開く可能性があるので、継続していくことは重要だと考える。</p>
委員	<p>高校生もはまっていけば、コンソーシアムやふるさと教育につながっていく。</p>
委員	<p>ファミプロのファシリテーターを高校生にとってもらったら、高校生の活用につながる。高校生の活用はとても重要。</p>
委員長	<p>松浦市はもともと高校生が中学校に入って、小学校に入っていた。補助金など、お金の関係が出てはくるが。</p>
委員	<p>市町によっては、社会教育委員会が2回しかないところもある。お話しせずに帰っていく方もいる。そのようなところでどの程度のボリュームで出していくかは考える必要がある。大枠を示して、例としてこちら、という出し方がありかなという気がする、提示の仕方を考えていかないといけない。</p>
委員	<p>川棚の社会教育委員が目覚めてバンドを作った。それまで年に2回しか集まっていなかったのに、しょっちゅう集まって楽しんでらっし</p>

	<p>やる。地域に踏み込むということに関しても、無償で学校や高齢者のサロンで演奏をしており、町だけでなく、あちこち行きたいという声も出ていると聞いている。</p> <p>川棚の場合は音楽を一つのきっかけとして流れがおこり、皆さん生き生き活動されている。やはり楽しんで活動するということが大切で、それが地域にも波及していると思う。</p>
委員	この前波佐見町では社会教育委員が劇をしていました。
委員長	少しずつ見えてきました。
委員	柱がたくさんあっても大変かなという気がするので、学校へいきましよう、パンドラの箱をあけましよう、地域は子育て応援しています、あと、楽しみましようということで、関連の写真を載せるとかいいですね。コロナ禍から変わったことが見えるのはいいのかも。上から目線ではなくて、一緒にがんばりましようよ、という感じになれば良いと思う。そうすると1枚でおわる。
委員長	<p>まとまってきました。メッセージとして、「楽しみましよう」であればバンドの写真を載せるであるとか、社会教育の変わり目、コロナ禍からの変化を示すということもできるかと思う。</p> <p>そんな時に委員長をしていて幸せだなと思う。</p> <p>その他に何かございませんか。ヒントがたくさんあると嬉しい。</p>
委員	QRコードを付けてファミプロの動画など、実践がみえるといい。
委員	川棚のバンドや、ながさきファミリープログラムの様子、地域学校協働活動の様子なども良い。
委員	県長寿社会課が通いの場として高齢者さんが「家から外に出て元気になりましよう」県内1500くらい、テレビでも取り上げていただいたが、反響がすごい。ファミプロもすごくいいから、動画が広がればいい。
委員	社会教育委員がいろんなことしているのを知らせるといい

委員	<p>行動だけでなく、思いも伝えたい。 自分がするから、人に伝えられる。だからまずは動くことが大切。</p>
委員	<p>社会教育委員の在り方ハンドブックみたいなものがあるといい。</p>
委員	<p>本にすると法律とか難しいことを書かないといけないから、まずは課長が言われたように、社会教育応援しましょう、社会教育頑張っていますというようなメッセージからがいいのでは。ハンドブックはその後でよい。</p>
委員	<p>ハンドブックは以前作成しているものがある。</p>
事務局	<p>改訂の際にはまたご意見を頂きたいと思います。</p>
委員長	<p>形が見えてまいりましたので、メッセージは6月で完成。事前に素案を送ってくるだろうから、修正をかけながら進めたい。</p>
事務局	<p>では協議はこれで終了し、進行を事務局にお返すする。 たくさんの御協議、ご意見をありがとうございました。第6回の会議で御提示できるようにしてまいります。それまでの間に、連絡を取らせていただきながら、進めてまいりたいと思いますので、引き続き御協力の程よろしくお願いいたします。</p>
(6) 閉会 課長	<p>皆様本日も本当にありがとうございました。7月までが任期ですが、今年度の会議は本日が最後であります。</p>
	<p>あらためて皆様に感謝を申し上げます。 社会教育委員の皆様のお言葉の1つ1つには、力と魅力がある。やはりそこには実践があり、それぞれの皆様の思いがあり、そういうお言葉をこの委員の会議の中で聴かせていただけるのが本当にありがたいと思っていた。</p>
	<p>最近放送されているドラマの中で、昭和と令和で驚くほどに価値観が変わっていると感じるものがあった。</p>
	<p>価値観の変化の中で苦労していることも多々あるなど思っていたところ、昨日は県の子ども会の研修会に参加させていただいた。</p>
	<p>どんどん加入率が低下していつている。ただ、高い志をもって取り組んでいる方もたくさんおられる。そして、どこの場でも言われるの</p>

は、人々が豊かに学んで、豊かにつながって、豊かに生きていくことや、地域の子どもを地域で育てるということは以前よりもその重要性が増している。このような中でメッセージについて、御協議をお願いしているのですが、決して上から目線になるようなものを作成しようとしているのではなく、社会教育に取り組んでおられる方々が、前に進んでみようという思いになるヒントになるようなものをお届けしたいと思っている。協議の中で学校にという話があった。県の社会教育委員連絡協議会の理事会の中でも、南島原市の社会教育委員長が「ぜひ、みんなで学校に行きたいですね」というような話をされていた。市町の思いと県の思いが合致している。ファミリープログラムの話が出ていたが、今一番必要なのは、世代を超えた対話ではないかと考える。その対話ということを考えたときに、長崎県には、このながさきファミリープログラムという大変強い武器を持っていると思っている。

また、若者の参加や、様々なつながりを他団体と作っていくこと、そしてどうしてもリニューアルしなければならないところがある。

今日は本当に皆様のそれぞれのグループで貴重なお話をきかせていただいた。どうぞ皆様、引き続きご指導いただきたい。

本日も雨の中、本当にありがとうございました。

次回は6月下旬に予定をしております。

以上で第37期第5回長崎県社会教育委員の会議を終わります。

ありがとうございました。

事務局